

未来に伝えたい「いま」
～いにしへから学ぶ～

奈良市立平城小学校

石原 宏一郎

○キーワード：万葉集、感動、序詞、リズム

○国語科として

序詞に着目し、自分自身の表現を考えていくことで、あくまでも「言葉」の学習として成立させたい。伝統的な言語文化の視点から、児童には、昔の人と感じることは同じだよ、今でも同じ事をやっているよという捉えをさせたい。

○学習について

6年生にとって3学期は卒業を間近に控え、いよいよという気持ちが高まっていく時期である。そんな時に、今感じている「卒業」への気持ちを詩で表させ、大人になった時に見返すことができるようにしたい。その手がかりとして、万葉集を学習材とする。万葉集を学習材とする良さは3点ある。

1つ目は、万葉集は「古事記に『後葉（のちのよ）に流（つた）へむと欲ふ』とあるように、万世にまで末永く伝えられるべき歌集」と言われており、「残したい」という点で児童の学習と接点があるということだ。

2つ目は、長歌など、言葉のリズムを感じやすいものが多くあることだ。詩を完成させていくときには、万葉集に倣い、詠んだ時のリズム感を意識させる。

3つ目は、修辞技法として序詞を含んだ歌が多くあることだ。それらを手がかりとすることで、自分の気持ちをより豊かに表す方法を知ることができる。

以上の良さを児童に実感させながら学習を展開していきたい。

○学習展開

- ① 6-1 国語辞典に附録をつくるということを知らせる。
- ② 「卒業」に向けての6-1の思い出を一人一人が詩で残すという計画を立てる。
- ③ 万葉集から学ぶ。
 - ア) 昔と今でも感じていることは同じ。
 - イ) リズムがある
 - ウ) 序詞などの技法で、内容をより豊かに想像することができる。
- ④ 詩を書いていく。
- ⑤ 卒業カレンダーにするとともに、国語辞典の附録として記念に残す。